



特集
命を守る防災

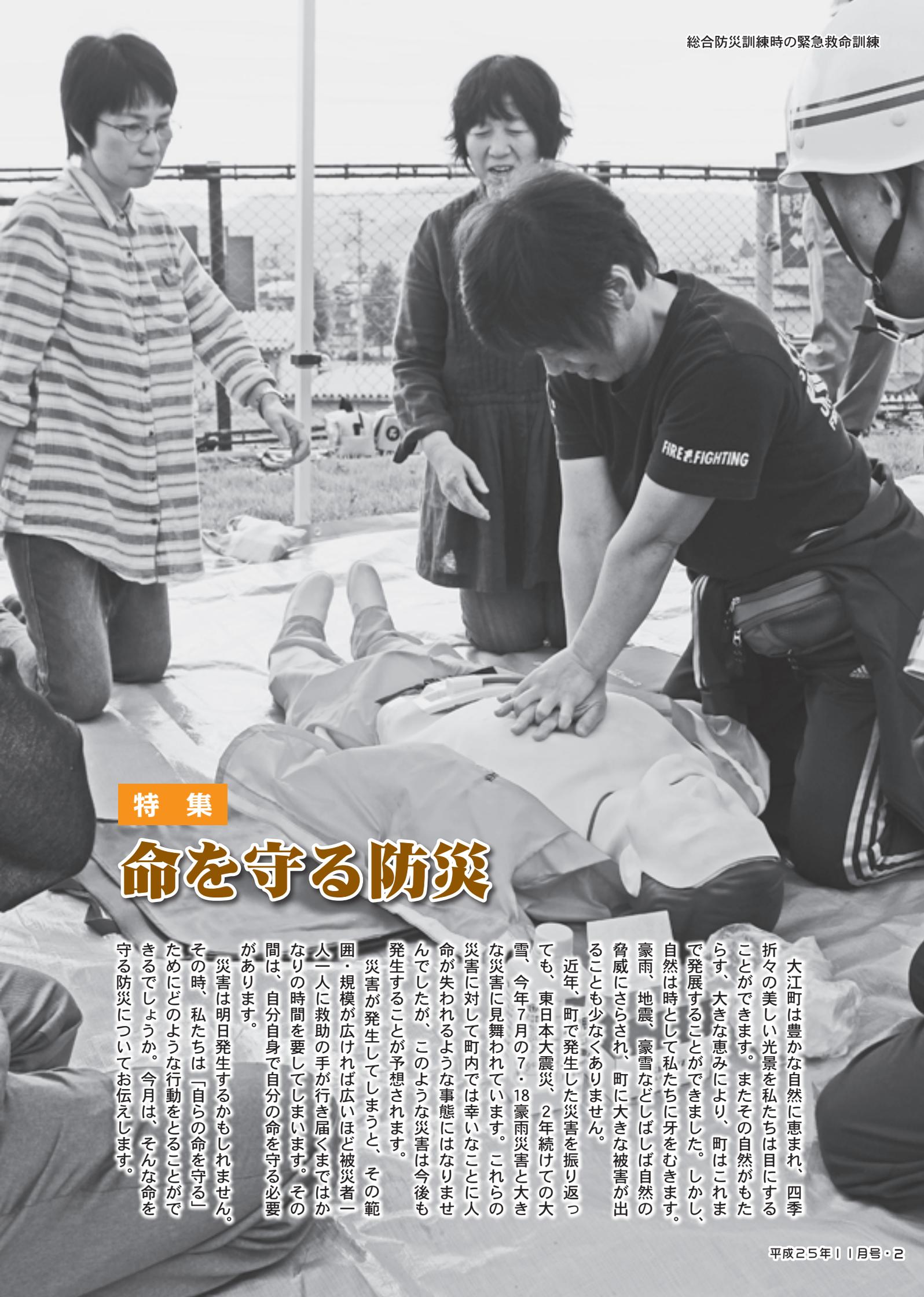
タスキをつなぎ力走

第34回大江町縦断駅伝競走大会が10月13日開催されました。絶好の駅伝日和となった大会当日。各チームとも沿道からの大きな声援を背に、懸命にタスキをつなぎながら秋の大江町を駆け抜けました。

平成25年

11

No.633



特集

命を守る防災

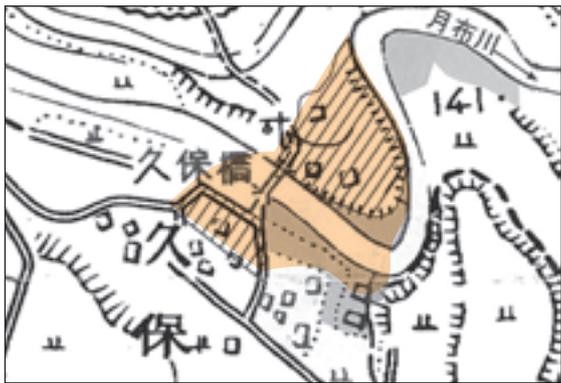
大江町は豊かな自然に恵まれ、四季折々の美しい光景を私たちは目にすることが出来ます。またその自然がもたらす、大きな恵みにより、町はこれまで発展することができました。しかし、自然は時として私たちに牙をむきます。豪雨、地震、豪雪などしばしば自然の脅威にさらされ、町に大きな被害が出ることも少なくありません。

近年、町で発生した災害を振り返っても、東日本大震災、2年続けたの大雪、今年7月の7・18豪雨災害と大きな災害に見舞われています。これらの災害に対して町内では幸いなことに人命が失われるような事態にはなりませんでしたが、このような災害は今後も発生することが予想されます。

災害が発生してしまうと、その範囲・規模が広げれば広いほど被災者一人一人に救助の手が行き届くまでにはかなりの時間を要してしまいます。その間は、自分自身で自分の命を守る必要があります。

災害は明日発生するかもしれません。その時、私たちは「自らの命を守る」ためにどのような行動をとることができるでしょうか。今月は、そんな命を守る防災についてお伝えします。

7・18 豪雨災害時の久保区



※斜線・色塗り部が浸水被害が発生した場所
 ※避難指示が発令されたが、久保橋が冠水したため、高台に避難せざるをえなかった

公助の役割と限界

防災には自助（自らの身は自分で守る）・共助（近隣住民同士の連携）・公助（町や消防、警察、自衛隊などによる避難、救助活動）の3つの連携が必要です。

国の災害対策基本法では、国や地方自治体に住民の身体、生命、財産を守る責務を与えており、町には、最前線で災害対応をおこなえるように、災害情報が集まる仕組みが構築されています。

例えば、水害や土砂災害が予想される際には、発生前より気象、河川水

位などの観測情報を入力し、地震災害の際には、発生直後に地震情報を入手し、被害の実情を把握します。その結果を受けて国や県への救助要請や住民への避難指示・勧告・準備情報の発令をおこないます。さらに、避難所を運営し住民の生活を支援するなどの対応もおこないます。

町では、早めの避難の促すため避難準備情報を発信し、避難勧告・指示が発令されても対象地域の方がスムーズに避難できるように心がけています。しかし自然が相手となる災害では限界があります。

3種類の避難

災害時には3つの「避難」があり

ます。1つ目は緊急避難です。地震や竜巻、ゲリラ豪雨に伴う土砂崩れや鉄砲水など、短時間での発生や予想が難しい災害が発生した場合で、避難勧告の有無など関係なく、ただちに避難しなければならぬ状況です。2つ目は滞在避難です。公民館や体育館などの避難所で一時的に生活するような状況です。3つ目は避難生活です。避難はしたものの、自宅に戻れず仮設住宅などで長期間生活しているような状況です。この3つの「避難」のうち緊急避難だけは行政でも対応できない場合があります。

難しい避難勧告

避難勧告は災害対策基本法60条に従い、町が特定の地区住民に対して指定された避難所までの避難を勧めるといふものです。しかしその発令には難しい判断が求められる場合があります。例えば、豪雨災害の場合、激しい風雨に加え道路が川のように冠水することがあります。そのため、道路と側溝、河川との区別がつかなくなり、誤って人が流されるといふ事故が発生する危険性が高まるため（夜間はさらに危険）、外に出歩かず屋内にとどまるほうが安全とされています。そのため、あえて勧告を出さずに外出を控えるよう呼びかけるという判断もあります。また、竜巻やゲリラ豪雨などの場合は短時間の

避難勧告は災害対策基本法60条に従い、町が特定の地区住民に対して指定された避難所までの避難を勧めるといふものです。しかしその発令には難しい判断が求められる場合があります。例えば、豪雨災害の場合、激しい風雨に加え道路が川のように冠水することがあります。そのため、道路と側溝、河川との区別がつかなくなり、誤って人が流されるといふ事故が発生する危険性が高まるため（夜間はさらに危険）、外に出歩かず屋内にとどまるほうが安全とされています。そのため、あえて勧告を出さずに外出を控えるよう呼びかけるという判断もあります。また、竜巻やゲリラ豪雨などの場合は短時間の

ため避難勧告の発令自体が難しくなります。勧告は発令された区域全域が対象になりますが、被災者個々人の状況は異なります。7・18豪雨災害時、町では久保区に避難指示を発令し、同地区の全住民に日本郷西小学校に避難するよう連絡しました。しかしその後直ぐに区内にある久保橋が冠水したため、一部の区民は小学校に避難できない状況となり、川の水位

	内 容	とるべき行動	
避難情報の種類	避難準備情報	事態の推移によっては避難勧告や避難指示をおこなうことが予想されるため、避難の準備を呼びかけるものです。	避難準備を整え、テレビやラジオの放送、町からの広報に注意しましょう。お年寄りや子どもは、早めに避難しましょう。
	避難勧告	指定された地域の居住者に避難を促します。	指定された避難所に速やかに避難を始めましょう。
	避難指示	命の危険が迫っている時に発令されます。「避難勧告」よりも拘束力が強くなります。	指定された避難場所に直ちに避難してください。

気象災害が発生したら



▲ 7・18 豪雨災害で冠水した果樹園（荻野）

これまで大江町で発生した気象災害のうち、最も多いのが風水害です。風水害の多くは4月から10月にかけて発生しており、大江町では特に台風や前線の活動が活発になる6月下旬から8月にかけて豪雨が発生しやすい傾向にあります。豪雨災害は、最上川、月布川およびその支流の河川の氾濫による浸水被害や土砂崩れなどで住宅、農地、インフラ施設などに大きな被害をもたらします。

テレビやラジオなどで、気象庁が発表する警報や注意報などの気象情報を確認しましょう。また、今年の8月30日からは重大な災害が発生する恐れがある場合、直ちに命を守る行動を要請する「特別警報」の運用がスタートしています。これらの情報や町から出される避難情報を有効に活用しましょう。

羽越水害

昭和42年8月28日から29日にかけて県南部に24時間の雨量が400mmを超える記録的な豪雨が発生しました。これにより最上川が急激に増水し、大江町では29日未明から百目木、鹿子沢などの集落を次々に襲いました。この災害で川岸付近の集落で家屋全壊・流出が35棟、床上浸水62棟、田畑が13ha冠水するなどの被害が出ました。



最上川が増水し冠水した住宅（百目木）

8・6水害

昭和51年8月5日から6日にかけて、東北地方南部を中心に大雨が発生し、大江町では24時間の雨量が約200mmの猛烈な雨を記録しました。町内では月布川流域の中小河川が随所で氾濫するとともに土砂災害が相次ぎました。この豪雨で町では行方不明者1名、家屋被害約300棟、農地等約250haなど大きな被害が発生し、被害の総額は当時の金額で29億円に上りました。



豪雨により増水した月布川（貫見）

が下がるまで、別の高台に避難せざるを得ませんでした。

激化する気象災害

7・18豪雨災害では、1日の間に通常の7月1か月分の雨量が降るといふ豪雨が町を襲いました。近年自然災害が日本中で多発しており、その中でも特に激しいのが気象災害です。

気象災害が激しくなった理由に地球温暖化が挙げられています。温暖化の影響で、日本列島および周辺の海水温度が通常よりも高い状態が続いているため、北からの冷たい空気と南からの暖かい空気による衝突が起きやすく大気が不安定になりやすい環境になっているといわれています。そのため「何年に一度」といった災害が、以前よりは発生しやすいと言われています。

温暖化の中で、特に注意が必要といわれているのが、台風の巨大化に伴う豪雨災害です。ひとたび台風が発生すると勢力を保ったまま、もしくは勢力を増しながら日本列島に向かってくる傾向が強くなると予想されています。台風が日本列島に上陸すれば、広範囲に豪雨をもたらします。

求められる主体的行動

私たちはどういう時に避難すべき

なのででしょうか。避難勧告が出た時でしょうか。しかし、地震、ゲリラ豪雨のように勧告が間に合わない場合があります。また、勧告に従って避難しようとしてもできない場合もあります。私たちはここで考えを改める必要があります。「避難勧告が出たから逃げる」「出ていないから逃げなくてもいい」ではなく、勧告の有無に関わらず、危なかったら逃げる。または、事前に出される情報をもとに早めに避難する選択があるという考え方も必要です。そのためには住民一人一人が、最悪の状態を想定し、人の判断に頼らず「自分の身は自分で守る主体的行動（自助）」がもとめられます。

自助力をつける

災害が発生した時すばやく主体的行動をとることは、簡単ではありません。個々人の置かれている状況によっても危険の度合いが変わってきます。どのような場合でも安全に行動するために、災害に対する知識を持つとともに、避難や初期消火、救助、救出活動などを練習できる防災訓練に参加しましょう。

重要な情報収集

災害が発生、または発生する恐れ

事前に確認しよう! **避難所**

避難所	所在地
左沢小学校	左沢816-1
町民ふれあい会館	左沢306
体育センター	本郷丁373-1
中央公民館	本郷丁373-1
大江中学校	本郷己605
県立左沢高校	左沢816-3
旧三郷小学校	三郷丙1403-1
本郷東小学校	本郷丙275-2
旧本郷西小学校	十八才甲117-1
旧七軒東小学校	貫見693-2
西地区体育館	貫見468-2
西地区公民館	沢口23-1
旧七軒西小学校	柳川959-1

伝言ダイヤル「171」

録音方法

171→1→(※)→伝言を入れる

再生方法

171→2→(※)→伝言を聞く

※被災者の電話番号を市外局番からダイヤルします

地震が発生したら

地震はプレートと呼ばれる地球を覆う岩盤がぶつかる時に生じる歪み、もしくはプレート内の亀裂(断層)によって発生します。大江町周辺では東に山形盆地断層帯、北に庄内平野東縁断層帯、南に長井盆地西縁断層帯があり、今後30年以内に7%の確率で震度5強～6強の地震が起きる可能性が指摘されています。



▲左沢地震で被害を受けた旧左沢小学校校舎

現状、地震は数十年内に何%の確率としか予想できません。そのため現在最も効果的な地震情報は緊急地震速報です。これは揺れまでの数十秒の短い間に発報されますが、この間に自分の身の安全を確保することは可能です。緊急地震速報は、震度5弱以上の揺れが予想される場合テレビ、ラジオ、携帯電話などに発報されます。

揺れに対しては「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所にすばやく避難することを心がけましょう。火は揺れている最中は危険なので近づかず、収まってから消すことが原則です。また、事前に家具の固定や家屋の耐震診断をおこない耐震化を図ることも重要です。

左沢地震(荻野地震)

過去大江町直下で発生した地震があります。昭和19年12月7日の深夜、荻野を震央とするM5.8、震度6の直下型地震が発生しました。この地震で荻野・堂屋敷では家屋の倒壊・破損が、左沢では小学校の校舎の破損や工場の煙突が折れるなど多くの被害が出ました。

が強まった場合、避難行動を取る際に必要となるのが「情報収集」です。時として情報が生死を分けることもあるため、情報を得る手段を普段から確認しておくとともに、地域ごとに最寄りの避難所がどこなのかあらかじめ確認しましょう。

町では、気象庁などからの情報をもとに災害が発生する可能性が予想された場合、状況に応じて避難情報を発信することになっています。避難勧告の発令時は、広報車による広報や対象区の区長に電話連絡などをおこないながら、消防団と連携して対象地区への避難の呼びかけをおこないます。その他にも災害時にはテレビやラジオ、インターネット、携帯電話向けの緊急速報メール(エリアメール)など、さまざまな方法で情報が提供されます。災害に対する備えに「早すぎる」という事はありません、これらの情報を活用し早めの避難を心がけましょう。また、万が一被災した時には電話がつながりにくい場合があるため、自分の安否を知らせる手段として災害用伝言ダイヤルを活用しましょう。

釜石の奇跡と避難の3原則

生存率99.8%。東日本大震災後、しばしばメディアでこの数値を見る機会がありました。平成23年3月11日、1000年に1度といわれる大津波

が岩手県釜石市を襲い1000人を超える方が津波の犠牲になりました。その中で釜石市の小学生1927人、中学生999人のうち、津波襲来時に学校の管理下にあった児童・生徒については全員が無事でした。(ただし、学校管理下でなかった児童生徒のうち5名が犠牲になりました)これは「釜石の奇跡」と呼ばれ、その時の児童・生徒たちの生存率が99.8%でした。

地震発生当時、停電により校内放送が不可能な中、中学校の生徒たちが真っ先に「津波が来る。逃げるぞ」と互いに呼びかけ合って駆け出しました。近所の大人や小学校の3階に避難していた付近の小学生もそれを目撃し、すぐさまその列に加わりました。また途中の坂道では幼稚園児とも合流しました。中学生は早く歩くことの出来ない園児たちやお年寄りをサポートしながら、最初の避難場所として指定されていたデイサービスセンターに集合しました。しかしそこで、ある中学生ががけ崩れを発見し、加えて「揺れが強かったのだからここにも津波が来るかもしれない」と主張。最終的に、さらに高台にある介護福祉施設まで避難しました。結果として津波は学校の3階を越え、デイサービスセンターも飲み込んでしまいました。生徒の冷静な判断が多くの命を救ったのです。



大江町総合防災訓練

- 1 災害発生時に有効な災害伝言ダイヤルの体験コーナー
- 2 起震車による地震体験。東日本大震災など過去の地震をもとに震度7まで体験することが出来た
- 3 三角巾を使用し止血や損傷部位の固定方法を練習する緊急手当訓練
- 4 倒壊家屋から人を救出する場合に効果的なチェーンソー。訓練では操作する上での基本的な知識を学んだ
- 5 バケツリレーを実施した初期消火訓練

共助の必要性

ここまで、主体的な行動ができた背景には、子どもたちが学校で学んだ「避難の3原則」がありました。具体的な内容は下記のとおりです。これは津波のみならず防災すべてに通じる考え方です。

目の前に迫る危機に対して避難するには自分自身で行動（自助）する必要があります。しかしそれだけで、自然災害に立ち向かうことは出来ません。大規模災害の直後は、電話や交通網、電気ガス水道などのライフラインが機能しない場合や公的機関による早期の救助や支援（公助）が行き届かない場合が考えられます。消防、警察、自衛隊などの助けが到着するまでは初期消火や、救出活動、炊き出しなどの必要があり、そのためには近隣住民同士の連携（共助）が不可欠です。その時に、力を発揮するのが自主防災組織です。

自主防災組織とは？

「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識のもと、地域の皆さんが自主的に設立し、防災活動をおこなう組織です。自主防災組織を作るには、地区などを単位に規約や組織を立ち上げ、また区内の活動に自

避難の3原則

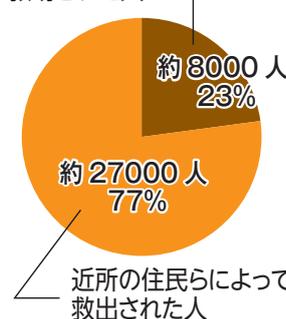
① 想定にとらわれない：例えば、大江町の洪水ハザードマップでは最上川はおよそ100年、月布川30年に一度の豪雨を想定して作られています。しかし、次に来る豪雨が過去にあったものと同程度とは限りません。想定はあくまでも一つの目安に過ぎず、周りの状況から危険を感じたら自主的な避難が重要です。

② 最善を尽くす：どのような状況下であっても、生き延びるためには自分が最善を尽くすしかありません。

③ 率先避難者になる：災害時、率先して逃げることでそれを目撃したまわりの人にも避難を促すという考え方は、人は自分にとって都合の悪い情報を無視し「いつもと変わらず正常である」と考える心理的特性（正常化の偏見）があります。それを打破するため、自分が率先して逃げることで結果として多くの命を救うきっかけを作るという考え方は、

阪神・淡路大震災における市民による救助者数と、消防、警察、自衛隊による救助者数

消防、警察、自衛隊によって救助された人





第4区自主防災会
(4区 区長)
駒林 義雄 さん

活動を理解してもらうことが大事です

自主防災組織設立のきっかけは東日本大震災でした。発生当時、停電の中、区長として区内の高齢者の安否を確認しようと1件ずつ訪問しましたが、その時、災害がいかに大変かという事、そして隣同士協力し合う事の大切さを強く感じ自主防災組織の設立を思い立ちました。

設立にあたり大事なことは、区の皆さんから自主防災組織の必要性を理解してもらう事だと思い、設立前の1年間は、町の担当職員を招いて勉強会を開催するなど区民みんなで理解を深める取り組みをおこないました。また、区内の各代表者による検討委員会を立ち上げ、その中で議論を重ねながら規約・組織図・防災計画など組織の内容を考えていきました。

これまで、発電機など各種防災備品と倉庫を整備してきました。今年は、これらの備品の起動確認と点検を毎月1回隣組ごとに持ち回りでおこなっています。また、10月6日の総合防災訓練で、避難、救出、炊き出し訓練を、11月3日には消火訓練をおこないました。この他にさまざまな取り組みの提案が出ていますので、区の皆さんの理解を得ながら進めていきたいです。

地震発生にともなう活動例

	各個人の行動	自主防災活動
地震発生	・まず身を守る	
1～3分後 揺れがおさまる	・身の回りの安全確保 ・火元の確認	
3～5分後 余震に注意	・近所の状況を確認	・安否や被害について情報収集
5分後 ～数時間 火災、家屋の倒壊、負傷者の発見	・ラジオなどによる情報確認 ・みんなで消火、救出活動 ・避難する場合、車は使用しない	・初期消火活動 ・救助活動 ・負傷者の搬送 ・避難誘導活動 ・集めた情報を行政機関や住民に周知
行政による救助や支援の開始		
～数日後 避難生活	・自主防災組織に協力して、秩序ある避難生活をおくる ・消火、救出活動などに協力する	・行政に協力して避難所を運営 ・災害時要援護者に対する配慮 ・ボランティアへの対応および協力



総合防災訓練に参加する4区自主防災会

主防災活動を組み入れていくやり方が一般的です。大江町では区単位に現在8つの自主防災組織が活動をおこなっています。

自主防災組織の主な活動は、平時の場合、防災講演会や訓練の開催、地区内の巡視・危険個所の把握、防災器材の整備など防災知識の普及や住民同士の連携を確認します。災害時の活動例は左表のとおりです。住民同士が協力することで自助と公助を結び付け、より効率的な災害対応に当たることができます。

共助の力は必須

地域における防災活動の重要性が再確認されたのは平成7年に発生した阪神・淡路大震災の時です。発生当時約15万人が家屋倒壊の被害を受け、その内、約3万5千人の人が倒壊家屋に閉じ込められました。その人たちを誰が救出したかは右グラフのとおりです。当時およそ8割の方が近所の住民らよって救助されています。大災害が発生した場合、いかに近隣住民の力が大切かを物語っています。また、東日本大震災では巨大地震と津波により多くの命が奪われた一方で、自主防災組織が機能した地域では、住民を迅速に避難させ全員助かったところもあります。

人を守るのは人だけ

私たちの生活は、堤防や護岸整備などしっかりとしたインフラ設備に守られており、小規模な雨、地震で被災を受けることは少なくなりました。しかし、災害は人が造ったそれらの設備を超えるから災害になります。毎年のように日本各地で災害が発生しており、大江町でも7・18豪雨災害が発生しました。災害から人を守るのには人だけです。災害に備えて自主防災活動を推進していきましょう。

■町の水をより多くの地区へ ～上水道自己水源区域の拡張～

上水道の自己水源区域を拡張しようと9月18日、町内4地区で柳川・切留水源からの試験通水がおこなわれました。

町の上水道区域は顔好橋を境に、東側が村山広域水道から受水している旧上水道区域、西側が柳川の月布川・切留の湧水を水源とする旧西部簡易水道区域に分かれています。

現在、町は上水道使用水量の93%を村山広域水道から受水しています。そのため、7.18豪雨災害の際は村山広域水道の給水停止に伴い町内の広範囲で断水が発生しました。

町では、村山広域水道からの受水を主体としながらも、自己水源の有効活用と有事の際のバックアップ体制について、以前から検討してきました。今回はその第一弾として顔好、葛沢、滝の沢、梨木原の4地区約60世帯に1日約40m³を配水することとしました。

当日は、顔好橋から梨木原地区までの道路下に設置されている仕切弁と排水弁を操作し、通水と排水を繰り返しながら自己水源の水を4地区に通していきました。試験通水が順調におこなわれたことから、現在もそのまま通水しています。

町では、平成30年度までに配水管の敷設替えや貫見配水池の増設を進め、下北山配水池へ送水をおこない、町道市野沢諏訪堂線以西の本郷地区まで自己水源区域を拡張し、上水道全体の使用水量のうち、自己水源の占める割合を7%から15%にする計画です。



▲道路下に設置されている仕切弁と排水弁を操作



▲顔好橋の下を通る配水管

新しい農業委員が決まりました



▲当選証書付与式に臨む公選農業委員の皆さん

9月27日、任期満了に伴う大江町農業員会委員選挙が告示され、8名の方が立候補し、無投票での当選が決まりました。また、選任委員として、議会および農業団体などの推薦委員5名を合わせ、13名の農業委員の方に今後ご活躍いただきます。任期は平成28年10月7日までとなります。

また、改選に伴う初総会が10月8日に開催され、会長に菊地敏美氏（深沢）、会長職務代理者に渡邊祐司氏（塩野平）が決定しました。

※農業委員は、農業者の意見を集約し遊休農地対策をおこなうなど、町の農業振興のため、地域の農地と担い手を守り活かす活動をおこなっています。

(敬称略・公選委員は選挙による届け出順)

- 鈴木 孝 (柳川平) 公選
- 堀 陽一 (富 沢) 公選
- 小林 一太 (上北山) 公選
- 鈴木 正清 (十八才) 公選
- 渡邊 祐司 (塩野平) 公選
- 高取喜久夫 (諏訪原) 公選

★職務代理者

- 伊藤 菊美 (小 見) 公選
- 菊地 敏美 (深 沢) 公選 ★会長
- 鈴木 文雄 (下北山) ※JAさがえ西村山推薦
- 菊地美津雄 (深 沢) ※農業共済組合推薦
- 明石 永七 (1 2 区) ※土地改良区推薦
- 渡邊 貞子 (梨木原) ※大江町議会推薦
- 鈴木恵理子 (伏 熊) ※大江町議会推薦



■捨てずに有効活用～豪雨災害時の流木再利用～

7・18豪雨災害の際に堆積した流木を、燃料などに再利用する取り組みがおこなわれました。

再利用されるのは、豪雨災害で久保区、三合田区を中心に堆積した流木約50ト。そのまま焼却処分することよりも、薪などに再利用する方が経費も安くなることから今回はじめておこなわれ、処理には、循環型の社会を目指して日頃活動している大江町光林会が担当しました。

9月17日浄化センターでは、初めに流木についての土砂を水で洗った後、光林会の会員が、チェーンソーで適当な大きさに切り分けていました。

切り分けられた流木は薪ストーブの燃料として、テルメ柏陵にある大江町型住宅のモデルハウスなどの公共施設で使用される予定です。

■おかげさまで全区画の分譲が終了しました ～きらりタウン美郷団地・蛍水団地～

「きらりタウン美郷」は子育て支援団地として平成18年11月から販売を開始し、7年弱で58区画が完売となりました。区画内にある町営住宅20世帯もすべて入居しており、現在、美郷区は70世帯254名が生活しています。まだ建設されていないもしくは建設中の区画もあり、今後住宅建築と共に、世帯数、居住者数はさらに伸びる見込みです。また、区民の交流の場であるコミュニティセンターの建設も進んでおり、来年の3月中に完成を予定しています。

「蛍水住宅団地」は平成10年3月から分譲を開始し、こちらも最後の分譲が成立し完売となりました。現在、蛍水団地には97世帯、334名が生活しています。

両住宅団地の完売を受け、町ではさらに定住を促進していくために、今後は新しい住宅団地の造成を計画していきます。



▲新居が建てられていく美郷団地



▲住宅が立ち並ぶ蛍水団地



▲たわわに実ったスモモをほおぼる参加者(渡辺果樹園)

◀青苧糸でストラップ作りに挑戦(歴史民俗資料館)

■町の特産物で出逢いを演出 ～出逢いのボランティアコンinおおえ～

地域活動やボランティアを通じて男女の自然な出逢いを演出する婚活イベント、出逢いのボランティアコンが9月29日に開催され、町内外から男女26人が参加しました。

このイベントは、村山地方の3市7町が組織する“むらやま広域婚活事業実行委員会”が主催となっておこなっているもので、前回の河北町編に続いて今年2回目の開催となります。今回の舞台となった大江町では、町の特産品である青苧糸を使ったストラップ作りや、大山自然公園で芋煮会、大江朝日スモモ部会長である渡辺誠一さんのスモモ園地にて収穫の手伝いなどがおこなわれ、さまざまな体験を通して参加者同士の交流を深めていました。

出逢いのボランティアコンでは、男女が気軽に参加できるように通常の婚活イベントでおこなわれるカップリングは実施されませんでした。イベント終了後には気の合った参加者同士で連絡先を交換しあうなどの光景がみられました。

■18年にわたる大事業が完了 ～藤田大明神線供用開始・開通式～

藤田地区の大明神から藤田工業団地へとつながる町道藤田大明神線が、10月2日に供用を開始し、これに併せて開通式がおこなわれました。

町道藤田大明神線は、国道287号・458号、県道大江西川線を連結し、左沢市街地内の物流をさらに促進する「左沢市街地循環道路」の要の道路として平成8年より計画がスタートし、18年の事業期間を要して、計画路線の全てが開通することとなりました。今回の開通により、沿線上の住宅地域や藤田工業団地へ国道から容易にアクセスすることが可能となり、地域間交流や経済活動の拡大が一層期待されます。

開通式では関係者によるテープカットがおこなわれたほか、さくら保育園の園児による「さくら元気太鼓」が披露され、開通の喜びに花を添えました。

渡邊町長は「関係者の皆さんによる18年間の絶え間ない活動の上に今日の完成があると感じています。今回の開通で国道287号、458号、延長上にある国道112号の3つの国道をつなげる道路が完成しました。今後はこの道路を町の人と人、人と物をつなぐ重要幹線にしていきたい」とあいさつしました。



◀「そ～れ!!」の元気な掛け声で、さくら元気太鼓が披露されました



◀サンプルハウスを案内する鈴木隆さん

■大江町産の西山杉を使用した住宅が誕生 ～林業振興・木材の販売促進～

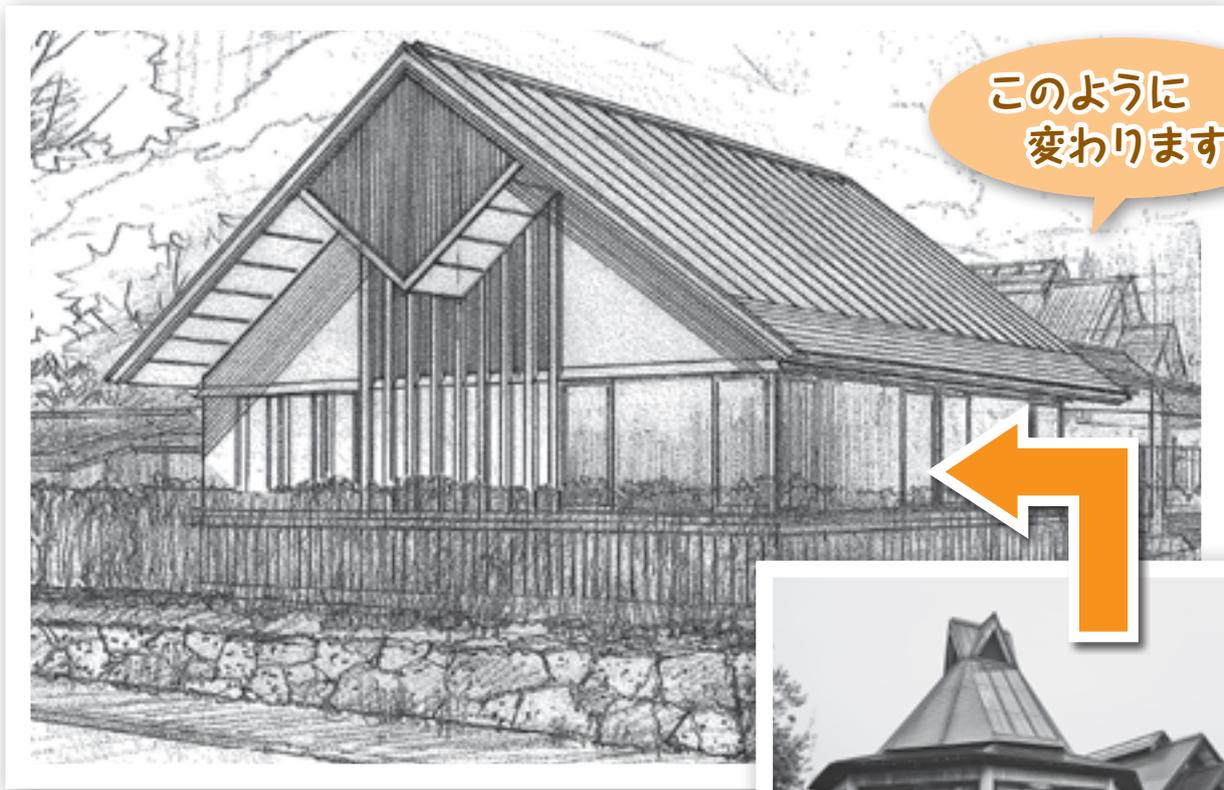
千葉県東船橋市に大江町産の西山杉を使用したサンプルハウスが建てられました。

これは、同市で不動産業を営んでいる大江町沢口出身の鈴木隆さんが建設したもので、鈴木さんが知り合いの森林所有者から「西山杉材がなかなか売れず、売れたとしても価格が低い」との現状を聞いたことがきっかけとなり、何か協力できないか考え、今回の建築につながりました。

使用された西山杉材については、大江町製材組合より直接購入しており、昨年からの取り組みを始め、12月に大江町内の視察をおこない、今年の5月に完成しました。

今回建設されたサンプルハウスには、太く赤身がかかった西山杉の柱や梁が随所に使用されており、さらに玄関は数寄屋風の趣があるものに仕上がっています。また、西山杉が持つ天然の温かみや丈夫で粘り強い構造に加え、山形県からの補助もあることから、外材と同じコストで建てられるという魅力もあります。

鈴木さんに今後の取り組みについて伺ったところ「現在2棟目を建築中で、12月ごろの完成を予定しています。さらに、古いアパートを取り壊し、西山杉を使用した新築住宅の建築も予定しています。また材料の西山杉は、これからも大江町から確保したいと考えています。これらの取り組みを通じて、西山杉材の魅力をアピールしていきたいです」と意気込みを語ってくれました。



このように
変わります！



■新浴室棟が来年4月にオープン！ ～テルメ柏陵健康温泉館改修工事～

テルメ柏陵健康温泉館の大規模な改修工事が10月16日から平成26年5月30日の工期で始まりました。

以前実施した施設の耐久調査では、同施設の木風呂の浴室が改修工事の必要があるとの結果が報告されました。町はこれを受け、利用者の安全、衛生面から早急に改修を実施する必要があると判断し、昨年度から改修に伴う基本設計などの準備を進めてきました。

今回の工事は木風呂の改修他、これまで利用者からいただいた要望にも応える内容となっています。工事の内容は、木風呂に代わる新たな浴室棟の建設、旧木風呂を改修し露天風呂と脱衣所を設置、石風呂の天井を追加および露天風呂を設置などとなっています。

営業については、石風呂の改修工事の期間（約1ヶ月、2月頃を予定）のみを休みとし、それ以外は木風呂も含めて通常どおりおこなう予定です。工事にあたり利用者の皆様には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

工事の概要

- ①工事費：2億3652万円
- ②請負業者：升川建設株式会社(河北町)
- ③完成期限：平成26年5月30日
(新浴室棟4月供用開始予定)
- ④臨時休館日：石風呂改修期間(約1ヶ月)
- ⑤改修の概要
 - ・新浴室棟の建設
 - ・木風呂屋根部分の解体
 - ・木風呂解体後北側に露天風呂設置
 - ・ // 南側に新脱衣所建設
 - ・寒さ対策として石風呂天井を低くする
 - ・石風呂に露天風呂設置
 - ・旧木風呂の脱衣所を渡り廊下に改修

議会

town council

第2回臨時会

大江町議会第2回臨時会が10月15日に開かれました。

今臨時会では、上水道の自己水源区域拡張についての報告、平成25年度一般会計補正予算、テルメ柏陵健康温泉館に伴う工事請負契約の締結など4議案が審議され、原案どおり承認・可決されました。

このうち一般会計補正予算は、歳入歳出にそれぞれ6300万円を追加し、総額は5億1450万円となりました。支出の主な内容は、7月の豪雨災害に伴う町内15カ所の道路復旧工事費に6252万円、古寺地区2世帯に設置されている衛星携帯電話の更新補助金46万円などとなっています。

コミュニティ助成事業で整備しました



（財）自治総合センターでは地域社会の健全な発展と住民福祉の向上を目的にさまざまな社会貢献事業をおこなっています。

その一つコミュニティ助成事業は、集会施設の整備や安全な地域づくり、共生のまちづくり、地域文化の継承など地域コミュニティの強化・充実に応援していくものです。今年度大江町では、次の2地区がこの事業に採択されましたのでご報告します。

第3区



獅子舞の羽根や提灯など、伝統行事の諸道具を整備しました。伝統文化の継承、発展に寄与するとともに、文化活動の促進や世代間の交流推進、地域コミュニティ活動の活性化が期待されます。

山崎区



区内にある公園にブランコや滑り台などの遊具を整備しました。子どもたちの遊び場と住民の集いの場が確保され、遊びを通じた子どもの健全育成や高齢者との世代間交流促進が期待されます。

輝いて今

様々な分野で活躍され、表彰された町民の方々を紹介します。

第10回全国障害者卓球大会
第13回全国障害者スポーツ大会

優勝
優勝

村山真人さん(藤田)



サウンドテーブルテニスの全国大会などで活躍されている村山さんが、9月15日、16日に北海道札幌市で開催された第10回全国障害者卓球大会と、10月12日から14日にかけて東京都で開催された第13回全国障害者スポーツ大会に出場し、見事両大会で優勝されました。村山さんは「周りの選手たちが上達してきている中、目標としていた全国大会優勝ができました。現在サウンドテーブルテニスには正式種目ではありませんが、東京パラリンピックにも出てみたいですね」と次の目標を語ってくれました。

第39回東北理容競技大会
第3部門JIG優勝 丹野瞬斗さん(7区)



第39回東北理容競技大会が7月22日、福島県で開催され、JIG部門で丹野瞬斗さんが見事優勝に輝きました。JIGとは、事前に指定されたヘアスタイルを忠実に表現し、その仕上がり具合を競うものです。丹野さんは「チーフ、先輩のお陰で優勝することができました。全国でも上位をめざし、これからも練習に励んでいきます」と次の大会に向けて意気込みを語ってくれました。

3歳児 Smile Photo

10月2日に
3歳児健診
を受けた元
気なちびっ
子たちを紹
介します!
(順不同)



鈴木美咲ちゃん
小見



レイニング繻良くん
小見



横山陸くん
市の沢



伊藤大貴くん
12区



渡邊千晴ちゃん
貫見



新宮枢ちゃん
小漆川



清野羽玖くん
堂屋敷



菅野志緒里ちゃん
1区



鈴木琴音ちゃん
顔好



佐竹由奈ちゃん
美郷



齋藤和心ちゃん
美郷



伊藤千尋くん
美郷



阿部愛美ちゃん
12区



大場咲絢ちゃん
月が丘



伊藤奈桜ちゃん
小見



公平就大くん
美郷



五十嵐七海ちゃん
富沢



小野夢紡ちゃん
諏訪原



渡部爽来ちゃん
若原



安藤優花ちゃん
榎山



北本悠莉ちゃん
小漆川

※お問い合わせは、健康福祉課 ☎(62) 2114 まで



鈴木舞ちゃん
榎山



清野愛凧ちゃん
美郷



奥山颯斗くん
美郷



箱崎凜ちゃん
12区

9/22 木を身近に感じながら

～ CBJ2013・ネイチャーワークショップ～

ツリーハウスや木工クラフトを体験できるネイチャーワークショップが9月22日、道海きこの園でおこなわれました。

ツリーハウスとは生きた樹木の上に家屋などを建設したものです。土台となった木は栗の木で、枝ぶりが複雑なため何回も測量したのこ、また、可能な限り木を傷めないように、釘を使用せずロープで固定されています。ワークショップではハウスに登るためのハシゴや廃材を再利用したイス・テーブルの作成に挑戦しました。

東北芸術工科大学ツリーハウスプロジェクト代表の小野寺涼さんは「地元の方々からの協力もあり、今までにない立派なものが完成しました。ツリーハウスは木をより身近に感じることができます。ワークショップを通じて木・自然とふれあい、その魅力を感じてもらえればうれしいです」と話してくれました。

また、ワークショップ後には同会場でCBJAM(センチュリーボーイジャンボリー) 2013小さな森のフェスティバルが開催され、県内外から多数の音楽愛好家たちが出演しました。会場には山に関する展示や売店ブースなども多数設置され、訪れた方は思い思いに道海地区の自然を満喫していました。



9/24 舟運文化を伝える

～大江町観光物産協会小鵜飼舟モニュメント設置～

町の舟運の歴史に深く関わっていた小鵜飼船を身近に感じてもらうと、大江町観光物産協会が9月24日、テルメ柏陵健康温泉館前に小鵜飼船のモニュメントを設置しました。

大江町は江戸時代元禄の頃から大正にかけて最上川の舟運で栄え、川港が置かれた左沢地区は、上流にいく小型の小鵜飼舟と下流にいく大型の船ひらたぶねに積み替えをする重要な中継地点でした。

設置されたモニュメントは大石田町の岡崎つたえ 傳さんが設計したもので、同町の舟下りで利用されていた舟を譲り受けたものです。表面には木目模様や木板と釘がどのように使用されていたか分かるように塗装されており、サイズは舟運当時の小鵜飼船とほぼ同じ、長さ15m、幅2.3m、深さ80cmとなっています。

協会では今後、帆や屋根なども追加し、より舟運当時に近い形に再現していく予定です。



9/28 10/5 家族が見守る中、元気に

～町内各保育所・幼稚園運動会～

爽やかな秋空の下9月28日と10月5日、町内各保育所・幼稚園で運動会が開催されました。

さくら保育園運動会では1～5歳までの園児80名が参加。大勢の保護者が見守る中、各種障害物競走や親子競技など14競技に挑戦しました。

平均台や板登り、跳び箱など6つ種目に挑戦する障害物競走「力いっぱい駆け抜けろ！」では、年長組の園児たちがそれまで練習した成果を存分に発揮しました。見事6種目すべてをこなしゴールした園児には家族からひととき大きな声援がおくられました。





御館山の急な山道がんばって登りました(写真左下)
下山途中に化石採取もしました(写真右下)

10/3・4 地元の魅力をより深く体験

～本郷東小学校冒険学校～

本郷東小学校の冒険学校が、10月3、4日、旧七軒東小学校および貫見区内を舞台におこなわれ、5年生の生徒24名が参加しました。

この取り組みは、統合された本郷西小学校、七軒東小学校、七軒西小学校、道海分校の、広大な学区にある自然・歴史・伝統文化などのよさを学び、ふるさとを愛する心と仲間との絆を深めるためにおこなわれました。今回は、七軒東小学校を活動拠点に、1泊2日の日程で御館山登山（化石採集）、野外炊飯、貫見ウォークラリーなどを体験しました。

1日目の夜には貫見区内の光学院で、松田正志区長による貫見の歴史や伝説などの話や座禅体験がおこなわれました。座禅は座った状態で、姿勢と呼吸を整え、心の中の自分と向き合うというものです。生徒たちは独特の足のくみ方に苦労しながら、座禅をとおして自分自身を見つめ直していました。



《新記録》 区間記録／6区間／大沼 翼（本郷南A）

10/13 大声援を受け力走

～第34回大江町縦断駅伝競走大会～

柳川温泉をスタートし、ゴールである中央公民館までの7区間24.1kmをタスキでつなぐ、第34回大江町縦断駅伝競走大会が10月13日、好天のもとおこなわれました。

木々が色づき、田んぼに稲杭が立つ秋の大江町を町内各地区の代表9チームが、沿道の大声援を受け走り抜けた今大会は、本郷南チームが2年ぶりの優勝を飾りました。また、6区間（藤田～蛍水）では、中学1年生の大沼翼さん（美郷）が区間新記録を樹立しました。

《大会結果》
優勝／本郷南A……………1時間21分23秒
準優勝／三郷……………1時間22分50秒
3位／本郷西……………1時間24分17秒



10/20 焼きたての鮎を堪能

～第21回清流月布川鮎まつり～

大江をみんなで考える会（鈴木伸治会長）が主催する清流月布川鮎まつりが10月20日、堂屋敷地内の一本橋公園を会場に開催されました。当日は小雨の降るあいにくの天気となりましたが、会場には月布川の天然鮎の塩焼きや鮎飯、芋煮などを求めて多くの人が詰め掛けました。



今年で21回目を迎える鮎まつりでは例年、地元の本郷東小学校の児童全員に鮎の塩焼きの引換券を無料で提供しており、会場には多くの子どもたちや親子連れが見られました。来場した子どもたちは、焼きたての鮎を口いっぱい頬張りながら「温かくて美味しい」と笑顔で話してくれました。

◆わだいの交差点に掲載できなかつた情報の一部は、町ホームページの「フォトおおえ」に写真を掲載していますのでご覧ください

町長 コラム Column

昔、畑や野原で遊んでいると小さな虫に刺された。「ぶど」とか「ぶよ」とかいう小さな虫で、刺されたところは赤い跡が残った。いつもの頃から、あの懐かしい虫がいなくなってしまう、代わりにチカッと刺し痛くてかゆい縞模様の蚊が、出るようになった「ぶど」に比べれば数十倍もいやらしい虫だ。

店屋さんの前に、柚子の苗木が置いてあった。ミカンの木が育たないように、柚子が山形県で育つわけではないだろうと思っていたが、飛鳥で栽培に成功したというニュースを読んでびっくりした。地球の気温上昇の報道もある。大江町の山々に黄色いミカンが鈴なりになり、今度はどんな虫が出てくるだろうか。不気味な期待ではある。

虫はすみかを移しながら、魚は海の温度を選びながら、自然との「調和」の中で生きているという。町内にイノシシが出て、大頭森山に二ホンジカも出て来て、気候の変化は想定できないほど深刻なのかもしれない。地球人は、有害鳥獣と「調和」できるか、生物多様性と共存共栄、大きな宿題が迫っている。

大江町長 渡邊 兵吾

左澤重要文化的景観

シリーズ企画 町の魅力発見！ vol.07

月布川は朝日連峰を源とし、町内古寺地区を流れる古寺川を源流としています。左沢で最上川と合流し、流域面積は山地から平地まで、大江町の実に90%を占めています。

町では月布川とその支流に沿って集落が展開しています。江戸時代、各集落では最上川舟運によって全国に移出された青苧が栽培されていました。特に月布川流域で採れる青苧は高級衣料として需要が高く、村人に大きな富と文化的な豊かさをもたらしました。各集落には、当時お祭りなどで人が集まった時に詠んだ前句寄（連歌の一種）が今でも残されています。その一つ黒森八幡宮に奉納されている掛額には「絹糸や青苧とともにうりきらす」という歌が記されており、青苧による当時の繁栄ぶりをうかがうことができます。

青苧は左沢領民の暮らしや左沢藩の財政を支える重要な特産品であり、左沢の町場は青苧などを生産する農山村との互惠関係の上に成り立っていました。西から左沢市街地に流れ込み最上川と合流する月布川は、農山村と左沢の町場との関係を物語る重要な要素となっています。

月布川



▲森の宮橋より望む月布川



黒森八幡宮奉納掛額

ALT通信 マットの おおえ生活 No.34

★このコーナーでは、小見在住のALT（外国語指導助手）マットさんが、日常生活で感じたことなどを伝えます。

Hello everyone. October is my favorite month of the year, because my favorite holiday is in October. That's right! Halloween is upon us and I've been busy working on costume ideas. Halloween is a very old tradition with the oldest recorded history found around 1556. The holiday is believed to have originated from the Celtic harvest festival and influenced by the Christian "All Saints Day". The word Halloween is a contraction of "All Hollows' Eve" and first came into use around 1745. Halloween is loved around the world. October 31st is a time to both remember the dead and celebrate the living. I hope you had a Happy Halloween!

皆さん、こんにちは。10月は私の一番好きな月です。なぜならば、私の一番好きなホリデイがありますから。そうですね！ ハロウィンが来ました！ 私はハロウィンのための衣装を考えたりすることで忙しかったです。ハロウィンはとても古い習慣で、最古の記録では1556年にさかのぼります。ハロウィンはケルト族の豊年祭とキリスト教の「All Saints Day」から来たと考えられています。実は「Halloween」という言葉は、「All Hollows' Eve」の短縮で、1745年あたりに初めて使われたそうです。ハロウィンは世界中に愛されています。10月31日は亡くなった人々を思い出すとともに自分の命をお祝いする日です。皆さんが今年のハロウィンを幸せに過ごしたことを祈ります。



▲気合の入ったメイクでパーティーを盛り上げるマットさん

地元の活動に参加していきたい

鈴木 伸さん (19歳・蛍水区)

「仕事で覚えることが多くて、まだまだ勉強中です」と話す鈴木さんは、高校を卒業後、株弘栄システムエンジニア(山形市)に勤務しています。「今は空調や冷暖房のメンテナンスをおこなうことが多いです。早く1人でこなせるようにしたいですね」と鈴木さんは仕事について語ります。趣味はバスケットボールで、小学生の時に始めてから、中学、高校とバスケットボール部に所属し、現在も社会人クラブに参加しているそうです。また、来春には登山を始めたいそうで「やりたい事がたくさんあって困ってしまいます」と鈴木さん。「地元のイベントに参加することが好きですね、いろいろな年代の方と関わることが楽しいです。これからも地元の活動に積極的に参加していきたいですね」と笑顔で話してくれました。



FOR THE YOUTHFUL トーク

● 短歌 ●

古い独り冬の暮らしを子等案じホーム入居の返答に苦慮す
 齡重ね日々の業は脆けれど若手の仲間とホールを競う
 新米を孫等に送る片隅に間引きのおみ漬そつと添える
 はらはらと薄紅色の花びらが秋明菊に振り返りをり
 けだかさに菊は芳し今朝の庭朝日に添えて姿うるわし
 庄内より二十五名のお客様昔の家業を語りて笑ふ
 待望の雨に潤ふ今朝の畑秋の野菜はみな元気づく
 わが畑の秋茄子今日も少し挽ぐ味わいて食ふ十月二十日

菅井 妙子
 菊地つねよ
 堀 トヨエ
 長岡かづ子
 佐竹 與鼓
 佐竹 麗子
 伊藤 和子
 斎藤 徳治

● 俳句 ●

秋晴や並ぶ稻杭赤とんぼ
 とりあえず豆で乾杯秋彼岸
 路も狭の落葉しずかに踏みにけり
 寒露近し酷暑の中の防災訓
 秋風や茂吉の碑あり最上川
 秋澄むや延命地藏と目の合うて
 山峡に伝うる青芋残る虫
 秋高し訓練本部空席に
 部屋に入る夕日斜めに秋深む
 秋燕忌青芋の里の燈が恋し

菅井 妙子
 林 忠逸
 今井 茂樹
 鴨田富士夫
 安藤 桂花
 秋元喜一郎
 金子脩一郎
 熊谷 勉
 舟山 三男
 伊藤 啓泉

吟遊浪漫
ぎんゆうろまん

このコーナーに掲載ご希望の方は、毎月20日(必着)まで役場総務課に作品をお寄せください。

お知らせ

Information

冬期スクールバス運転手（臨時職員）および登録運転手の募集

◆募集人数／1名

◆雇用期間／12月1日～平成26年3月31日まで

◆勤務形態／6時30分～17時30分までのうち、4時間～6時間45分程度
※学校の下校時刻や降雪状況により勤務時間が変動します。原則、中学校が休みの日は休日となります
◆業務内容／左沢小学校・大江中学校スクールバス運行に係る業務（主に三郷・用・富沢方面登下校バス運行。ただし一斉下校や校外学習がある場合は、その他の場所への運行もあり）

◆申込資格／大型自動車1種免許取得者、過去5年間重大な事故・違反がない（後日、証明書の提出ができる）方

◆賃金／時給852円（通常の就業時間で5751円/日）

◆申込期限／11月22日（金）※スクールバス登録運転手の募集は随時おこなっています

◆必要書類／履歴書、運転免許証の写し

◆提出先／教育文化課学校教育係（大江町大字本郷丁373番地の1中央公民館内）

※お問い合わせは、教育文化課学校教育係 ☎(62) 2270まで

映画「人生、いろいろ」大江町上映会

◆日時／11月16日（土）1回目10時30分～12時40分 2回目13時30分～15時40分 3回目19時30分～21時40分

◆会場／ふれあい会館

◆同時上映／町の魅力発見VTR

◆同時開催／東北芸術工科大学デザイン工学部 准教授 三浦秀一氏トークセッション「大江町の魅力と今後を考える」、三浦秀一氏×上映実行委員 15時40分～16時10分

◆入場料金／《前売券》1000円

《当日券》1500円 ※小中高生800円

◆主催／映画「人生、いろいろ」大江町上映実行委員会

◆共催／大江町・大江町教育委員会

※お問い合わせは、映画「人生、いろいろ」大江町上映実行委員長石坂康平（大江町地域おこし協力隊）

☎080-5497-2144まで

12月4日から12月10日は人権週間です！

この期間に先駆けて、左記の事業をおこないますのでお知らせします。困りごと、心配ごとがある時はひとりで悩まず、お気軽にご相談ください。

【人権なんでも相談所】

◆期日／12月7日（土）10時～15時

◆会場／寒河江市フローラ・SAG AE4階※法務局職員と人権擁護委員が相談に応じます

【人権相談】

◆期日／12月2日（月）13時～15時

◆会場／大江町役場102会議室※人権擁護委員が相談に応じます

【人権書道展】

◆期間／11月27日～12月8日

◆会場／ふれあい会館ロビー

※お問い合わせは、税務町民課戸籍年金係 ☎(62) 2113まで

寒河江警察署協議会委員の委嘱について

警察署協議会は、地域住民の声を警察署の業務運営に反映させるため、警察法に基づき設置されるものです。この度次の方が寒河江警察協議会委員に委嘱されましたのでお知らせします。

◆委員名／山家貴代さん（大江町左沢）

◆委嘱期間／6月1日から平成27年5月31日まで

総合支庁分庁舎の課税事務を本庁舎に集約します

平成26年4月1日から村山地域の県税に関する申告書や申請書の提出先が本庁舎（山形市）に変わります。ただし、県民の方々の利用が多い、納税窓口や納税証明書発行、一部の課税部門に係る申請受付事務は従来どおり西庁舎（寒河江市）でおこないます。詳しい内容は左記までお問い合わせいただくか、県税政課のホームページをご覧ください。

やまがた結婚サポートセンターのご利用のご案内

1対1でのお見合いをやまがた結婚サポートセンターがお手伝いします。プロフィールなどを登録していただく、センターが会いたい方とのマッチング、出逢いの場の設定をサポートします。現在、登録会員を募集中です。※ご利用には会員登録（有料）が必要です

高齢者肺炎球菌 ワクチン接種費用の助成

本町の死因第3位は「肺炎」です。「肺炎球菌ワクチン」の接種は、肺炎球菌による肺炎の発症や重症化の予防に効果があり、約5年間効果が持続するとされています。ワクチンの接種は主治医とよく相談し、効果などを十分理解したうえで接種してください。

◆対象者／町内に住所がある65歳以上の方。

◆助成額／4,000円

◆実施場所／

寒河江市西村山郡内の医療機関(一部を除く)

◆予防接種・費用助成の受け方／

①医療機関に予防接種の申し込みをしてください。

②接種料金(8,000円程度)から助成額を差し引いた額が医療機関窓口で請求されます。

※県立河北病院で接種する場合は接種券が必要ですので、接種予定の1週間前までに健康福祉課にご連絡ください。

◆その他／上記以外の医療機関で接種する場合は、一旦接種料金を支払った後、次のものを持参して健康福祉課に申請してください。(平成26年3月31日まで)

①領収書(予防接種を受けたことがわかるもの)

②接種者名義の通帳

③印鑑

※お問い合わせは、健康福祉課保健衛生係

☎(62)2114まで

最低賃金が改定されました

◆山形県最低賃金／1時間665円

◆効力発生日／平成25年10月24日

※この最低賃金は、県内で働くすべての労働者に適用されます

※お問い合わせは、山形労働局労働基準部賃金室

☎023-624-8224まで

高齢者世帯などの雪下ろし 玄関除雪支援について

高齢者や障害者の冬季間の暮らしを守るため、標記の支援事業をおこないます。

◆支援対象世帯は、次の要件のすべてに該当する方

①大江町に住所を有し、実際に居住している世帯

②所得税非課税世帯

③高齢者や障害者のみの世帯、またはこれに準ずる世帯で、自力で雪下ろしなどができない世帯

④子や親戚などから雪下ろしなどの支援(経済的支援を含みます)をしてもらえない世帯

◆支援の内容

支援対象者が現に居住している住宅の雪下ろしおよびそれに伴う住宅周辺の除排雪、除雪車通過後の玄関の除排雪作業

◆支援額

①雪下ろし、玄関除雪とも支援額は対象経費の9割です。

②雪下ろし支援の対象経費の上限は1回25,000円で、2回分までが対象となります。(支援額は、対象経費が25,000円の場合9割の22,500円となります)

③玄関除雪支援の対象経費の上限は24,000円です。回数の制限はなく、シーズンを通してとなります。(支援額は、対象経費が24,000円の場合9割の21,600円となります。)

◆ご留意いただきたいこと

①店舗、農作業小屋、倉庫、車庫、他人に貸している住居は支援対象になりません

②雪下ろしなどの依頼は、必要な時期に直接事業者などに依頼してください

③できる限り、子や親戚などの方の協力をお願いします

◆事業を利用するには事前に申請が必要です

申請書は11月24日(日)まで地域の担当民生児童委員にお届けください。(申請書は地域の民生児童委員又は役場健康福祉課に準備しています。)

※お問い合わせは、健康福祉課(62)2285まで

編集 後記

外に身近な存在だと思えます。これを機に家でも災害用に非常食を備蓄した方が良いかななんて思っています。(山家雄志)

今月の15、16日、台風26号が伊豆大島を襲いました。大規模な土石流が発生し、40名以上の死者・行方不明者が出てしまいました。このニュースを見た時、災害に対して行政がすべきこと・出来ることは、そして町民の皆さんが出来ることはなんだろうと改めて思い、今回の特集につながっていきましました。今年には災害の当たり年だね「ニュースを見るたび私の祖母はこう話します。しかし、昨年もそんなこと言っていたような？災害はいつ起こるか分かりませんが、意外に身近な存在だと思えます。これを機に家でも災害用に非常食を備蓄した方が良いかななんて思っています。(山家雄志)

687-1972まで

◆日時／11月17日(日) 10時～18時

◆場所／村山総合支庁 講堂

※お申し込み、お問い合わせは、や

まがた結婚サポートセンター ☎023-

参加ご希望の方は予約が必要です、

やまがた結婚サポートセンターまで

【出張登録会】

10000円

◆登録料／平成26年2月28日

まで8000円(3月1日以降は

あむあむ教室 鈴木敏子



リレー随想／

《第77回》

最上川のほとりに生まれ

左沢線の楯山トンネルを抜けると、車窓にさざ波光る最上川とアーチ型最上橋、川に沿った町並が幕を開いたかのように現れてきます。高校時代までは何も感じなかった光景が、齢を経るごとに他に誇ることができ、美しい風景だと思ふようになってきました。

私は左沢一区の川岸の百目木茶屋という家で生まれ、その家に中学二年生まで暮らしていました。その当時、家は川魚割烹を営んでおりまして、一部三階建て三階建部分の一階

は川岸に面し、二階は道路出入口、三階が主に客室で床面積が約二百坪程ある大きな家でした。明治二十一年に建てられた古い趣のある家でした。夏になると家の一階は最上川の昔の船着き場になり、川の水位が下がりバン（川の中の浅瀬の岩盤）が現れると、歩いて川向まで渡って行ったり、夕方父と一緒に流し釣りをして、夜に浅瀬に水鏡とヤスをもって夜ツキ漁に行ったりしていました。また家の前から最上橋まで泳いでいくこともでき、最上橋の上流は水泳場になっていて、夏の間は子どもたちの歓声がこだましていました。その頃の川には楽しみが沢山ありました。その頃、最上川はきれいな時は川底の魚達が泳いでいるのを二階から見ることが出来ました。

しかし梅雨時期になると、一、二年ごとに濁流と化し、一階の床近くまで水位が上がリ、母や家族は家の前から舟に乗せられて原町の親戚宅に避難するという、大変な生活でもありました。厳冬に入ると、大雪の翌朝は上流から、スガ（氷板のような雪の塊）が絶え間なく流れてきて、岸辺の雪景色と溶け合い幻想的光景になるのです。

年後の昭和四十二年八月の羽越水害で百目木地区は十数軒が一階の天井近くまで水に漬かるという大水害が起こり、私の家も床際まで川の水が押し寄せてきました。明治生まれの祖母はダムがなかった時は経験したことがなかったと、話していました。幸いそれから約四十数年間は昔ほどの洪水に見舞われなくなり安心した暮らしができるようになりました。

私は現在、仙台と左沢の実家を行き来する生活をしてはいますが、実家に帰るごとに川岸に出て川を眺めています。昔日のように子どもたちが釣をしたり、夏に浅瀬で遊んでいる光景は殆ど見ることがありません。川岸にはロープが張られ川の中をのぞいたり、川水にすぐ触れてみることも出来ないようになって大変残念です。下水道が整備されて生活下水が川に流れ込むことは少なくなりましたが、いつ眺めても少年のころの澄んだ川を見ることが出来なくなりました。

後藤岩太郎翁が舟を浮かべ最上川舟唄を創った時のような川にしたいものです。すぐには難しいでしょう。まずは川岸に時々足を運び、川面を眺めたり、川水に触れて感触を確かめてはいかがでしょうか。

（二区 阿部 文明）

人口と世帯(前月比)

町の人口	9,011人(-17)
男	4,421人(-12)
女	4,590人(-5)
世帯数	2,918戸(+0)

平成25年11月1日現在

戸籍の まど

9月21日～10月20日受付分



お誕生おめでとう

区名	氏名	性別	父母名
藤田	村上 大悟	男	周次・香
上北山	横山 真実	女	朋永・幸子
小漆川	柏倉 かえで	女	拓磨・美奈

ご結婚おめでとう

区名・出身地名	氏名
(9区)	佐藤 洋平
河北町	押野 和美
(小見)	伊藤 輝明
盛岡市	佐藤 恵理子

ご冥福を祈ります

区名	氏名	年齢
深沢	菊地 久志	(65)
1区	後藤 誠一	(73)
藤田	海野 忠夫	(87)